

臨床について

九州大学病院 歯内治療科

歯のより永い保存を求めて -とことん保存にこだわった歯内療法-

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会の指導医・専門医を中心に、腫れや痛みなどの症状がいつまでも続くような難治性の疾患を持つ歯（難治性根尖性歯周炎）の治療を行っています。歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）、歯のCT（CBCT）など、近年新しく開発された器材・設備を用いて、先進的歯内治療や、歯根尖切除術・再植術などの外科的治療を施行しています。当科ではこのような処置によって、多くの難治性根尖性歯周炎の歯を抜かずに治癒させています。

◆ マイクロスコープ

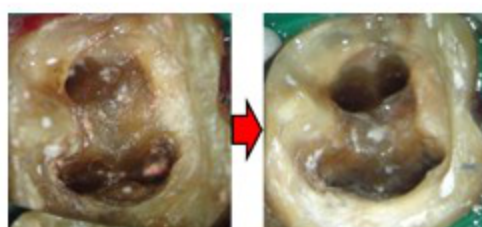


Mani社製

Carl Zeiss社製

Pentron社製

当科では様々な難症例に対応するため、マイクロスコープを6台設置しています。



根管探索前

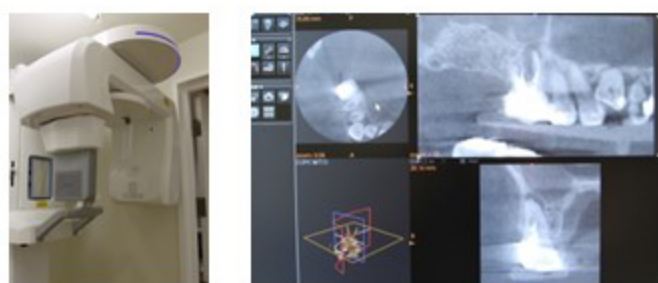
根管拡大後

難症例の原因となる、『歯の中に隠れている根管』を見つけることができます。

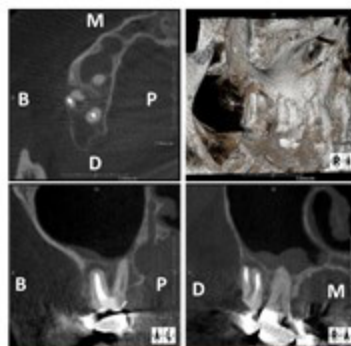
『折れてしまった根の治療器具』もしっかりと見ることができ、除去が可能となります。



◆ CBCT



口腔画像診断科と連携し、主に難症例の歯の詳細な状態確認を目的としたエックス線検査を行います。



通常のレントゲン検査では解明困難な難症例の原因を究明することができます。